

実証運行の数値指標について

1 評価指標と数値指標

実証運行の是非を評価する指標とは別に、持続的な運行を目指すうえでの運行効率を測るための指標を設定する。

2 数値指標の考え方

<委員意見>（令和8年度第1回地域公共交通会議）

- ・一人当たりのコストや一便あたりの利用人数で考えていくのか、運行経費の上限額を設定し、特定の方に手厚く利用されているという方法で考えていくのか、どちらに振るか。その上で個別の事業に対して数値を設定する2段階構えに考えることが良いと思う。
- ・公費負担が衝撃的であったが、きめ細やかな方向へ向かっていくのか、拡大路線を選択するのか悩ましいと感じた。



公共交通空白地域における移動手段である公共交通として、運行の効率性を測るため、利用人数や一人あたりの公費負担を指標とする。また、運行の効率性を図る指標だけでは捉えることのできない多面的な側面の効果もあることから、市の公共交通に係る予算規模の範囲を考慮しながら運行経費の上限を設定し、その範囲で多面的な役割を果たしていけるよう数値指標を設定する。

数値指標の設定にあたっては、市の公共交通に係る予算規模を踏まえつつ、現在の運行サービス水準を大きく損なわない範囲で、現状の高額な公費負担を抑える運行内容について検討していく必要がある。

3 数値指標の案

公共交通に関する数値指標として、一般的に用いられる指標と、指標ごとの実証運行における現状値

指標	現状値	算出方法	備考
支出額（年間）	35,999,800 円	運行経費－運行収入	令和8年度予算額
1日平均利用者数	20.70 人／日	利用者数／運行日数	令和7年10月～ 令和8年3月実績
1便あたり利用者数	0.49 人／便	利用者数／便数	令和7年10月～ 令和8年3月実績
1人あたり公費負担額	5,055 円／人	支出額／利用者数	令和7年10月～ 令和8年3月実績
収支率	5.6%	運行収入／運行経費	令和7年10月～ 令和8年3月実績